



第1小学部教頭 桶屋宗伯

## 「子供たちが輝いた運動会」

「開始まで30秒前。3・2・1スタート。」本部の指示の下アナウンス開始。1800人の子供たちが赤・白・黄の3団に分かれて整列し、いよいよ運動会が始まりました。

開会式から感銘を受けました。人数の多さだけではありません。子供たち一人一人から運動会を成功させようとする並々ならぬ「思い」が伝わってきたからです。その後繰り広げられる学年の団体演技と団体競技でもその「思い」が1つ1つ表現され、子供たち一人一人の「輝き」になっていきました。

特に団体演技では予想を超える出来映えに驚かされました。短い練習時間しか確保されていない中、よくそこまで演じることができました。

ここまで出来た要因は、もちろん、子供のがんばりが一番です。しかし、家庭での練習の際にお子さんを励ます保護者の協力がなければ到底成し遂げられない内容だったと思いました。

【開会式：応援歌「GOGOGO」】

さて、運動会を通して、子供たちはどんな力を身に付けたのでしょうか。学校全体の練習は実質一ヶ月ほど。本番までの期間で子供たちはいろいろなことを体験し、高めた資質・能力があると思います。それはどのようなものだったのでしょうか。

教科の授業では各教科の知識や技能を身に付けますが、運動会を通して身に付ける力はそれとは異質なものです。数値では表せない力で、「非認知能力」とも呼ばれています。

団体演技と団体競技を例に挙げます。内容、練習の進め方を何度も話し合っ決めて、練習後には振り返りをし、改善点を修正します。これを繰り返していくことを通して、高めることができた資質・能力。

おそらくそれは、みんなで大きなことをやり抜くための「協調性」や「粘り強さ」、仲間を思う「優しさ」「思いやり」等でしょう。そういう資質・能力が「友情」を育み、「絆」を深めていきます。人として生きていく上で、大切な価値観、人間性と捉えることができます。

また、応援団にとっては、加えて「説明力」や「調整力」等のリーダーシップを磨く機会にもなったはず。学年縦割り、600名の3つの団に分かれ、切磋琢磨する運動会。その運動会だからできる体験、高められる資質・能力があります。そこに、運動会を実施する意義や価値があると思いました。

改めて、行事の大切さに思いをはせてみます。やはりそれぞれの行事には、そこでしか得られない体験があり、その体験を通してこそ高められる資質・能力があるということです。家庭でも、行事の前後で、本人の思いや保護者の経験、願い等を話題にされ、コミュニケーションを深める機会にしていいただければと願います。

さて、4年ぶりに4000人弱の保護者参観の運動会を開催するにあたり、PTA役員の方々と学校が手と手を取り合っ、運営方法について試行錯誤しました。保護者の皆様にも多くのご協力をいただくことができました。改めて感謝申し上げます。



<子供たちが輝いた学年演技の一コマを紹介します>



【1年「うみのふしぎとスマイルみっけ！」】



【2年「にこにこファイティン」】



【3年「エイサー～古より，そして今を生きる～」】



【4年「รวมใจ!南中ソーラン」】



【5年「一致団結～今伝えたい ARE～」】



【6年「リズムダンス・フラッグ『6 我夢宙』】